『百人一首』「恋の歌」学習プリント5

はじめに

前時は平安時代中期から後期の「恋の歌」について、時代背景の確認やお気に入りの歌について読解の基礎作業をやりました。

本時は40番と41番の歌を取り上げ、これらの歌にまつわるエピソードも交えて深く理解しましょう。

課題一　二つの歌にまつわるエピソードを知ろう。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

天徳の御①歌合のとき、兼盛、忠見、ともに御随身にて左右についてけり。初恋といふ題を給はりて、忠見、名歌詠み出だしたりと思ひて、兼盛もいかでこれほどの歌を詠むべきとぞ②思ひける。

③恋すてふわが名はまだき立ちにけり人知れずこそ思ひそめしか

さて、すでに御前にて講じて、判ぜられけるに、兼盛が歌に、

つつめども色に出でにけりわが恋はものや思ふと人の問ふまで

判者ども、名歌なりければ判じ煩ひて、④天気を伺ひけるに、帝、忠見が歌をば両三度御詠ありけり。兼盛が歌をば多反御詠ありけるとき、天気左にありとて、兼盛勝ちにけり。

忠見、心憂くおぼえて心ふさがりて、不食の病つきてけり。頼みなき由聞きて、兼盛、とぶらひければ、「別の病にあらず。御歌合のとき、名歌は詠み出だしておぼえ侍りしに、殿の『ものや思ふと人の問ふまで』に、あはと思ひて、あさましくおぼえしより、胸ふさがりて、かく重り侍りぬ。」と、つひにみまかりにけり。執心こそ由なけれども、道を執するならひ、あはれにこそ。ともに名歌にて『拾遺』に入りて侍るにや。

（無住『沙石集』より）

＊本文は古典Bの教科書（古文編）P.12,13に採られています。注釈等を参考にすること。

問一　傍線部①の読みと意味を答えなさい。

読み＝

意味＝

問二　傍線部②の主語として最適なものを次から選びなさい。

ア　忠見　　イ　御門（みかど）　　ウ　兼盛　　エ　判者　　オ　居合わせた人々

問三　傍線部③の意味として最適なものを選びなさい。

ア　もうとっくに恋を捨ててしまったのに、いつまでもうわさになっている。

イ　恋を失ったという私の評判はもはや消えかかっている。

ウ　恋をしているという私の評判はもはや消えてしまった。

エ　私の恋が思うようにならなかったという噂がまたしても立ってしまった。

オ　私が恋をしているという評判がもう早くも立ってしまった。

問四　傍線部④の意味として最適なものを次から選びなさい。

ア　空模様を仰いだところ　　イ　天の声に耳を傾けたところ

ウ　天候により占ったところ　　エ　天皇のご意向を伺ったところ

オ　神仏のご託宣を伺ったところ

問五　「つつめども」（『百人一首』では「忍ぶれど」）の歌にはある表現技法が用いられている。最適なものを選びなさい。

ア　体言止め　　イ　本歌取り　　ウ　序詞　　エ　倒置　　オ　縁語

問六　本文の趣旨を示している一文を抜き出し、最初と最後の五字を示しなさい。

課題二　40番と41番の歌について、添付資料も参考にして、次の問いに答えなさい。

40　恋すてふわが名はまだき立ちにけり　人知れずこそ思ひそめしか　平兼盛

41　忍ぶれど色に出でにけりわが恋は　ものや思ふと人の問ふまで　壬生忠見

問一　あなたはどちらの歌が優れていると思いますか。

問二　優れていると判断する根拠を書きなさい。